

UHEC－評定－防A02
平成15年09月03日制定
平成16年10月10日改訂
平成18年12月01日改訂
平成30年01月26日改訂

防災計画書 作成要領

平成30年1月

株式会社 都市居住評価センター

性能評価・試験事業部

防災計画書記載要領

○書類の様式について

- ・ 計画書はA3版横に横書きし、左とじ（クリップ綴じ可）として下さい。
なお、最終提出はA4版見開き製本とします。
- ・ 判読しやすいもの、明確に記したものとして下さい。
- ・ 図面は、記号・着色などによりわかりやすく作成すること。実施設計図を縮小して使用する場合には、字句等が不鮮明でないか、記号が小さすぎないか、不必要な細かい数値等が記入されていないかなどに留意し、判読できるようにして下さい。

○最終図書の提出

- ・ 防災計画書に以下の書類を添付した上で3冊ご提出下さい。
2冊は、内容の確認後、押印の上返却いたします。
もう1冊は「都市居住評価センター」にて保管いたしますのでご了承ください。

最終図書の目次（参考例）

0. 防災申請書（写し）及び、防災評定書
1. 建築物の概要
2. 防災計画基本方針
3. 火災の発見、通報及び避難誘導
4. 避難計画
5. 排煙及び消防活動
6. 管理・運営
7. 付図
8. その他
9. 追加検討項目一覧表及び追加検討資料
 - ①追加検討項目一覧表
 - ②追加検討資料

※添付資料の内容について、以下、3ページ以降を参照してください。

[背表紙]

[表紙]

計
画
名
称

計 画 名 称

主 要 用 途

防 災 計 画 書

平
成
年
月

平成 年 月

委員会の開催された年月を記入

設 計 者
申 請 者

申請者： 住所
 氏名
設計者： 住所
 氏名

〔目 次〕

1. 建築物の概要

- 1.1 建築概要
- 1.2 附近案内図
- 1.3 建築計画概要
- 1.4 設備計画概要

2. 防災計画基本方針

- 2.1 防災計画上の特徴
- 2.2 敷地と道路
- 2.3 避難階の位置
- 2.4 防火区画・防煙区画
- 2.5 安全区画
- 2.6 各階区画図
- 2.7 防災設備の概要
- 2.8 防災設備機器一覧表
- 2.9 内装計画
- 2.10 その他

3. 火災の発見、通報及び避難誘導

- 3.1 自動火災報知設備
- 3.2 消防機関への通報設備
- 3.3 非常放送設備
- 3.4 非常電話
- 3.5 非常用の証明装置及び避難誘導灯
- 3.6 避難指令の方法
- 3.7 各階設備図

4. 避難計画

- 4.1 避難計画の概要
- 4.2 基準階の避難計画
- 4.3 特殊階の避難計画

5. 排煙及び消防活動

- 5.1 排煙設備の概要
- 5.2 排煙系統説明図
- 5.3 排煙口位置図
- 5.4 非常用進入口位置図
- 5.5 非常用エレベーター
- 5.6 各種消火設備その他

6. 管理・運営

- 6.1 防災センター（中央管理室）
- 6.2 各設備の作動シーケンス
- 6.3 維持管理の形態
- 6.4 維持管理の方法

7. 付図

- 7.1 各階平面図
- 7.2 立面図
- 7.3 断面図
- 7.4 矩計図

8. その他

1. 建築物の概要

1.1 建築概要

◇以下の項目について記入して下さい。(記入項目については別表参照ください)

- ・ 建築物名称
- ・ 建築場所
- ・ 地域、地区の指定 (用途地域、高度地区、防火地域、指定建ぺい率、指定容積率、その他)
- ・ 主要用途 (共同住宅の場合は分譲・賃貸の別を記入する)
- ・ 工事種別
- ・ 敷地面積
- ・ 建築面積、建ぺい率
- ・ 延べ面積
- ・ 容積対象床面積、容積率
- ・ 階数
- ・ 高さ (軒高さ、最高の高さ、塔屋を含む最高の高さ、基準階の階高)
- ・ 構造種別
- ・ 駐車、駐輪台数
- ・ 施設規模 (ホテルの客室数、共同住宅の戸数、劇場の客席数、店舗の売り場面積等)
- ・ 各階別床面積表
- ・ その他特記事項 (その他特記事項があれば記入する。設計変更により再評価を受ける場合は、変更内容を簡潔に記述する。)

1.2 附近案内図

◇方位、敷地境界線、最寄の消防署の位置と計画地までの消防車での所要時間を明確に記入して下さい。

1.3 建築計画概要

◇建築物の用途、形状、構成等、全体計画の特徴について、建築物配置図、断面構成図、概念図又は簡単なパース等と利用し、わかりやすく簡潔に説明する。

また、一団地設計等により同一敷地内で竣工時期が異なるものについては、配地図等に工区・竣工の時期を明確に記入して下さい。

1.4 設備計画概要 (一覧表で示す等、できるだけ簡潔に記載して下さい)

◇電気設備

受変電設備、電気室の位置、非常用電源について記入

◇空調設備

熱源種別、空調方式及び換気方式について記入

◇衛生設備

給水設備、給湯方式について記入

◇ガス設備

ガスの種類、使用場所（具体的な室名を記入）、ガス設備の安全対策について記入

◇昇降機設備

種類（常用、非常用、福祉対策など）、台数、仕様、非常時（地震時、火災時、停電時）の管制運転の方法について記入。作動シーケンスは、6.2 各設備の作動シーケンスに記入。

非常用エレベーターについては種類・台数のみとし、詳細は 5.5 非常用エレベーターに記入。

2. 防災計画基本方針

当該建築物の防災計画が「新・建築防災計画指針」（以下「指針」）に準拠した考え方として下さい。

避難行動の予測に当たっては、指針に示される方法、または、これらと同等以上の確かさで予測でき、信頼性の認知されている方法としてください。

2.1 防災計画上の特徴

◇出火・火災拡大予防、煙の制御、避難および消火活動等、防災計画上、留意した点について、箇条書きして下さい。

2.2 敷地と道路

◇建築物の規模が把握できる概略寸法を記入した配置図又は避難階平面図に以下の内容を図示する。

- ・外周道路
- ・広場
- ・敷地内通路
- ・避難出口
- ・敷地内避難経路
- ・消防活動空知及びその進入経路
- ・防災センター（中央管理室）位置及び進入経路
- ・連結送水位置
- ・非常用エレベーター位置 等

◇また、隣地の建築物が近接する場合は、その外壁ライン、構造、階数、用途等を記入し、計画建築物の排煙口、吸気口と隣地建築物の開口部の位置関係を図示して下さい。

2.3 避難階の位置

◇避難階を記入して下さい。

◇避難階が 2 以上ある場合や低層部の屋上を経由して避難できる場合等は、断面模式図等

によりその状況を示して下さい。

2.4 防火区画・防煙区画

- ◇異種用途区画、面積区画、層間区画、たて穴区画等の防火区画の設定方針及び防煙区画の設定方針について簡潔に記入して下さい。
- ◇また、上階への炎・煙の遮断方法や、自然排煙、吹抜部まわりの区画、防煙垂れ壁等の詳細について、必要に応じ説明図を添付して下さい。
- ◇防火区画貫通部の処理方法、各種貫通部配管の材料について簡潔に記入して下さい。
- ◇防火区画などで排煙緩和をうける場合、縦シャフトに準ずるスペース以外は告示 1436 号による。(高さ 31m以下の建築部の部分と 31mを超える部分で扱いが異なることに注意)

2.5 安全区画

- ◇安全区画及び避難経路の設定方針について簡潔に記入し、平面区画、避難施設、避難動線を示して下さい。

2.6 各階区画図

- ◇各階平面図（同一平面の階は基準階としてまとめる）に主要寸法を記入し、防火区画・防煙区画・防火上主要な間仕切りの位置（間仕切り壁とは区別し、不燃間仕切り、可動垂れ壁等を明記する）及び防火戸の種別、延焼ライン等を記入して下さい。
- ◇区画図は防災計画書最も重要な図であるため、排煙（機械排煙または自然排煙、告示による排煙緩和の別、ダクト、防火ダンパー、排煙系統など）もこの図に示して下さい。
- ◇図面は、適切な縮尺のものとし明確に判読できるものとして下さい。

2.7 防火設備の概要

- ◇防火設備システムの概要をフローチャートで示して下さい。(防火センターで制御・監視する範囲を示す)

2.8 防火設備機器一覧表

- ◇各階ごとの各種防火設備機器の設置状況を下記の凡例を用いて一覧表に示して下さい。

(凡例)

◎：法令によらず自主的に設置したもの

●：法令等により義務設置したもの

○：特例等により設置緩和されたもの

△：除外予定のもの

- ◇防災センターでの各設備の監視（表示）や操作（制御）の有無を示して下さい。

(各設備についての説明文、位置図及び統計図と不整合のないよう注意)

2.9 内装計画

- ◇内装計画の方針について記述し、間仕切材料、主要部分の内装材料及び下地材料の防火性能の程度（不燃、準不燃、難燃など）を一覧表で示して下さい。

2.10 その他

- ◇火気使用室の延焼防止対策を記入して下さい。
- ◇その他, 防火計画上特記すべき事項があれば記入して下さい。

3. 火災の発見、通報及び避難誘導

3.1 自動火災報知設備

- ◇感知機の種類、設置範囲、発報の表示の方法及び音響装置や電源について簡潔に記入して下さい。

3.2 消防機関への通報設備

- ◇通報設備の設置、設置位置等について簡潔に記入して下さい。

3.3 非常放送設備

- ◇非常放送設備の操作方法、放送範囲等について簡潔に記入して下さい。

3.4 非常電話

- ◇非常電話の操作・方法等について簡潔に記入し、平面図に設置位置を示して下さい。

3.5 非常用の照明装置及び誘導灯

- ◇灯具の種別やその位置及び電源について簡潔に記入して下さい。

3.6 避難指令の方法

- ◇3.1～3.5の各設備の運用方法、あるいは人による避難指示・誘導の方法等について記入して下さい。

3.7 各階設備図

- ◇各階平面図（同一平面図の階は基準階としてまとめる）に各設備の位置を記入し、その設備の対象範囲を示して下さい。

4. 避難計画

4.1 避難計画の概要

- ◇避難計画にあたっては、各居室からの避難に支障をきたさないよう、次の事項に注意して下さい。

- ・避難上重要な階段の踊場には段を設けないこと。
- ・避難階段の内部に倉庫を設けないこと。

- ◇避難対象人員

各階の主要用途、居室床面積、避難対象人員等を一覧表で示して下さい。

◇避難施設の概要

- ・平面図、断面模式図等により、避難のための階段、バルコニーなどの位置、縦動線の概要を説明して下さい。
- ・屋外避難階段はその周囲 2m の範囲を 2.6 各階区画図に明記示して下さい。

4.2 基準階の避難計画

◇避難経路

平面図に、各居室から階段に至る避難経路とその幅員、開口部（扉等）の幅員、歩行距離を記入して下さい。

◇計算の前提条件

各室の収容人員の算出、出火場所と避難方向の想定、その他避難時間計算の前提条件とした事項について記載して下さい。

◇居室避難計算

- ・「新・建築防災計画指針（最新版）」に示す方法により、居室避難所要時間及び許容時間のチェックを行い、各数値及び計算結果を一覧表で示して下さい。
- ・居室の床面積が 200 m² を超える場合は、避難上最も有効な扉を 1 ヶ所使用不能として計算して下さい。
- ・親子扉の場合は、フランス落として固定した子扉の幅は有効幅員に算入しないで下さい。（避難計画上は親子扉より両開扉の方が望ましい）

◇各階避難計算

- ・原則として各階段のそれぞれについて、廊下避難時間、廊下滞留面積、各階避難時間及び附室等の面積のチェックを行い、各数値及び計算結果を一覧表で示して下さい。
- ・階段の幅員よりも階段への流入扉幅が大きい場合、また、複数の扉から同時に階段への流入する場合などは、扉幅の合計ではなく、階段の幅が避難計算の有効幅として下さい。（このような計画は避難上無理がありできる限り避けること）
- ・屋外階段の場合は、一層下の階まで階段を降りきる時間を階避難完了の時間として下さい。なお、階段部分での歩行速度（ μ ）は 0.5m/sec として下さい。
- ・建築物の階ごとに用途、規模等の平面計画が異なる場合は、それぞれの階について避難計算を行って下さい。

5. 排煙及び消防活動

5.1 排煙設備の概要

◇建築物の主要部分の排煙方式（自然・機械、告示適用・排煙免除）について記入して下さい。また、6.2 各設備の作動シーケンスにそれらの作動フローチャートを記入して下さい。

5.2 排煙系統説明図

◇断面模式図等で排煙系統を示す。なお、同図上にダンパーの位置、非常用エレベータ乗降ロビー及び特別避難階段附室の給気口を明記する。

◇厨房、駐車場、特別避難階段の附室及び非常用エレベーターのロビーは別系統とする。

5.3 排煙口位置図

◇2.6各階区画図に排煙口の位置及びダクト経路並びにダンパーの位置を記入して下さい。

◇防災センター、厨房などの天井裏を通過する横引きダクトは耐火被覆を施して下さい。

◇天井チャンバー方式の場合には、天井裏の梁、空調ダクト、配管等の状況を示す説明図をつけて下さい。

5.4 非常用進入口位置図

◇2.6各階区画図に非常用進入口の位置を記入して下さい。

5.5 非常用エレベーター

◇設置場所、仕様、運転システムについて記入して下さい。

◇乗降ロビーの面積及び寸法を記入して下さい。また、形状はできるだけ正方形に近いものとし、最短辺でも2.5m以上確保して下さい。

5.6 各種消火設備その他

◇次の設備等について概要、堅配管系統説明図及び作動フローチャートを簡潔に記入して下さい。また、各階平面図（同一平面の階は基準階としてまとめる）に各設備の位置を記入する。

- ・屋内消火栓設備
- ・スプリンクラー設備
- ・泡消火設備
- ・二酸化炭素消火設備
- ・ハロゲン化物消火設備
- ・粉末消火設備
- ・消防用水（防火水槽）

その他, 消火活動に必要な設備

- ・連結送水管
- ・非常コンセント設備
- ・連結散水設備

6. 管理・運営

6.1 防災センター（中央管理室）

- ◇防災の拠点となる室の名称は、文中では防災センター（中央管理室）とし、監視室、管理人室などまちまちな表現を避けて下さい。
- ◇防災センター（中央管理室）の位置、外部からの侵入経路及び防災設備の管理方法について簡潔に記入する。なお、防災センター（中央管理室）については、以下の点に注意して下さい。
 - ・耐火構造の壁・床で区画する。
 - ・自然排煙とする
 - ・可能な限り、出入口は2ヵ所確保し、そのうち1ヵ所は直接外部に出られるか、又はこれに通じる通路に連絡させる。
- ◇防災センター（中央管理室）における監視体制について、以下の項目を含め、明確に記入して下さい。
 - ・昼間及び夜間の監視状況（24時間常駐か昼間のみか、人員や対応の方法）
 - ・管理は自営か、委託か（委託の場合は連絡方法や連絡体制など）
 - ・別棟に総合監視センター等がある場合は、相互の連携はどのようになっているか
- ◇防災監視盤における各種設備の監視制御機能を一覧表で示して下さい。

6.2 各施設の作動シーケンス

- ◇防災センターにおいて各種設備の管理、制御が行われている場合には、3章・5章の各設備を含め、作動シーケンスをまとめて一覧表で示して下さい。

6.3 維持管理の形態

- ◇防災面の維持管理の主体及び防災管理組織について、可能な限り具体的に記入して下さい。
- ◇特に、所有区分や管理区分が2以上となる場合には、これらを統括した体制をつくって下さい。

6.4 維持管理の方法

- ◇防災設備の維持管理（点検整備）、避難・消火活動、火災予防等の方法に対する計画又は方針を記入して下さい。

7. 付図（判読できる範囲でA3版程度に縮小する）

- ◇計画書に使用した平面図が、簡略化されていて、細部を見るために必要があると認められる場合には各階平面図を添付して下さい。
- ◇立面図（2面以上）
- ◇断面図（2面以上）
- ◇矩計図

8. その他

◇所轄消防の防災計画案回答書、意見書などがあれば、その写しを添付して下さい。
 その他、特定行政庁が必要と認めたものを添付して下さい。

各階区画図凡例

(2.6 参考)

色	記号	内容
あか		防火区画(兼 防煙区画)
グリーン		防煙区画(間仕切壁)
グリーン		防煙区画(垂れ壁)
オレンジ		防火上主要な間仕切(令114)
きいろ		延焼のおそれのある部分
		防火設備(網入ガラス付防火戸)
		特定防火設備(常時閉鎖式防火戸、令112条第14項第二号)
		防火設備(常時閉鎖式防火戸、令112条第14項第二号)
		特定防火設備(常時閉鎖式防火戸、令112条第14項第一号)
		防火設備 (常時閉鎖式防火戸、令112条第14項第一号)
		特定防火設備 (随時閉鎖式・煙感知器連動、令112条第14項第一号防火戸)
		防火設備 (随時閉鎖式・煙感知器連動、令112条第14項第一号防火戸)
		特定防火設備(随時閉鎖式シャッター・熱感知器連動、令112条第14項第一号)
		特定防火設備(随時閉鎖式シャッター・煙感知器連動、令112条第14項第一号)
		常時閉鎖式 不燃扉
みずいろ		自然排煙区域
きみどり		機械排煙区域 排煙口・ダクト 排煙縦ダクト・ダンパー付
		自然排煙用開口部
		排煙縦ダクト・ダンパー付
		排煙口

各階区画図凡例

色	記号	内容
ピンク	□	H12年 告示 第1436号 第4号 □
	(1)	H12年 告示 第1436号 第4号 ハ(1)
	(2)	H12年 告示 第1436号 第4号 ハ(2)
	(3)	H12年 告示 第1436号 第4号 ハ(3)
	(4)	H12年 告示 第1436号 第4号 ハ(4)
	ニ	H12年 告示 第1436号 第4号 ニ
あか	▲	非常用進入口
あか	△	非常用進入口にかわる窓